

【本時案】

第1時

- (1) ねらい
本文から収集した情報を基に、なりきりスピーチのテーマを考えることができる。
- (2) 準備
「魚を育てる森・難語句プリント」、短冊、マジック
- (3) 展開（5時間中の1時間目）

学習活動	時	学習への支援（ ）及び留意点（ ） 十分満足とする状況・態度の生徒に対する支援（ ）	評価項目（評価方法）
改まった場面で話すことの難しさを振り返る。	10分	改まった場面で話すことの難しさを振り返る。この活動は、話し手が聞き手に配慮して、聞き手の立場から助言する。	
『魚を育てる森』でスピーチの名人を目指そう！			
本文を読んで各情報を基に、スピーチのテーマを考える。	35分	自分なりにスピーチのテーマを考えることができるよう、「魚を育てる森・難語句プリント」を活用して本文を読み、概要をとらえる活動をする。自（何）に、どのテーマについて、だれ（何）が、だれ（何）に、どのように促す。生徒に対して、具体的な一冊に書くことができない生徒に対しては、本文から出てくる「人」や「もの」を確認して、その立場から助言する。内容のスピーチが可能かを考えるよう助言する。設定することができるよう、たテーマをいくつか例示する。ノートに書き出せたことを賞賛したり、励ましたりして他の生徒へ広げ、活動の活性化を図る。「もの」の立場に立って、スピーチのテーマを多様に考えるよう助言を行う。	【関心・意欲・態度】 ・スピーチのテーマを自分なりに考え、ノートに書いたり、発表したりしている。 (活動及びノートの観察)
各自で考えたスピーチのテーマを、発表し合う。 (1) 各自の考えたテーマをグループ内で発表し、検討する。 (2) 各グループの検討結果を発表し合い、検討する。		生徒たちがスピーチのテーマを検討し、精選する。各自で考えたテーマの内容をいっしょに発表し、お互いに確認し合う。スピーチの内容を確認し、グループで検討していく場面では、本文の中にある助言を行うことができるよう、励ます。自信をもつ発表を促す。聞き手に対して、受容的な聞き方を促す。本文の内容を根拠に積極的に発言するよう促す。 スピーチのテーマを精選するため、各グループで検討したテーマの内容を発表し合い、本文に書かれている情報を確かめ合ったりする活動を行う。支援する目的や相手、スピーチが可能と判断した理由などについて各グループのテーマを発表するよう助言する。	【話すこと・聞くこと】 ・目的や相手を明確にして、スピーチのテーマを発表している。 【言語についての知識・理解・技能】 ・場の状況に応じた適切な音量や速さで話している。 (発言及びノートの記述内容の分析)
次時からの「なりきりスピーチ」のテーマについて確認する。	5分	生徒の考えたテーマの中から三つを選んで、スピーチ、最後のスピーチで利用することを説明する。	

第2時

- (1) ねらい
集めた情報を基に、スピーチメモを書き、「なりきりスピーチ」をすることができる。
- (2) 準備
・フラッシュカード、スピーチメモ作成用紙、付せん紙、原稿用紙、
- (3) 展開（5時間中の2時間目）

学習活動	時	学習への支援（ ）及び留意点（ ） 十分満足とする状況・態度の生徒に対する支援（ ）	評価項目（評価方法）
前時の学習を振り	↑	前時の板書事項を書いた模造紙を黒板に提示し、	

返る。 本時のめあてをつかむ。	5分 ↓ ↑	既習事項を説明する。	
魚になって、「なりきりスピーチPART」をしよう！			
スピーチメモを作成する。 (1)スピーチの相手、目的、内容を明確にする。 (2)スピーチに必要な情報を集め、メモをまとめる。	30分	<p style="text-align: center;">【テーマ】「魚たちは訴える！『腐植土を大切に』」</p> <p>スピーチの内容を具体化するため、テーマを確認して話す目的や相手を明らかにしたり、内容に盛り込む必要のある事柄を確認したりして支援を行う。</p> <p>スピーチの目的や相手、内容が明確になるように「腐植土を守ってほしい」と再確認する。人間に訴える「腐植土を守ってください」と述べるだけでは聞き手への説得力が乏しいことを確認し、「腐植土の役割やそれが大切な理由」を内容に盛り込む必要に気付くことができるようにする。</p> <p>自分なりにスピーチメモを作成することができるよう、必要な情報を収集したり、収集した情報を生かしてメモを作成したりする活動を支援する。</p> <p>「腐植土の役割」についての情報を得ることができない生徒に対しては、本文中で「役割」という単語が使われている箇所に着目するよう助言を行う。全員がメモを作成することができるよう、先生が読んで収集した情報を交流し合い、黒板に整理する。メモに盛り込む言葉が分からない生徒に対しては、板書中の言葉を一つの話にまとめられないでいる生徒に対しては教師が例示を行い、自らの話をまとめ手がかりとなるように行い、一人一人のメモづくりの際の支援を十分に行い、一人一人の生徒が話しやすいスピーチをするため、メモの書き方や話し方を自分なりに工夫するように促す。構想したスピーチが、目的や相手に合ったものかどうかを、もう一度メモで再確認することを促す。</p>	<p>【関心・意欲・態度】 ・書いたメモを基にしてスピーチしている。 (活動の様子を観察) スピーチメモの分析)</p> <p>【話すこと・聞くこと】 ・腐植土が大切なわけを、自分なりにスピーチしている。 (活動の様子を観察) スピーチメモの分析)</p> <p>【言語についての知識・理解・技能】 ・話す速度や声の大きさに注意して話している。 (活動の様子を観察)</p>
作成したメモを基に、「なりきりスピーチ」を行う。	15分	<p>作成したメモを基に、自分なりにスピーチをするよう、発表やグループでの聞き合いを支援する。</p> <p>一人一人の生徒が、自分なりにがんばってスピーチの姿勢を認め励ましていくことで、活動の意欲を高める。自分の声の大きさや速さを調節する状況に応じて、声の大きさや速さなど、具体的に助言を行う。スピーチ終了後、さらに聞き手に分かりやすいスピーチにしていくには、自分のスピーチのどこをどのよう改善していけばよいかを具体的に考えるよう助言を行う。</p>	

第3時

()の部分が見通し1にかかわる部分。また、授業後の質問やビデオ録画、録音などの方法を使っても検証を行う。)

- (1) ねらい
モデルスピーチを聞き比べ、メモを見比べる活動を通して、分かりやすいスピーチをするための七つの観点をとらえることができる。
- (2) 準備
・TV、ビデオデッキ、モデルスピーチ を収録したビデオテープ、スピーチ上達シート
モデルスピーチ のスピーチメモ、第2時の板書事項を書いた模造紙
「分かりやすいスピーチの秘密探しシート」
- (3) 展開(5時間中の3時間目)

学習活動	時	学習への支援()及び留意点() 十分満足とする状況・態度の生徒に対する支援()	評価項目(評価方法)

分かりやすいスピーチをするための秘密をさぐる。

ビデオを視聴して、モデルスピーチを聞き比べる。

分かりやすいスピーチの話し方の観念に気付くことができるよう、モデルスピーチを聞き比べて気づいたことを発表したり、それを整理したりする活動を行って支援する。

<モデルスピーチの相違点>

	モデルスピーチ	モデルスピーチ
メモの書き方	文章で書いたメモを作成している。 終わりで結論を述べる構成(尾括式の構成)になっている。	A付せん紙に書いたキーワードでメモを作成している。 Iはじめと終わりで結論を述べる構成(双括式の構成)になっている。
メモの生かし方	繰り返しの部分はなし。 メモをそのまま読んでいる。 抑揚や間のない平板な話し方をしていて、やや小さめの声で話す。 身振りはない。	U大事なことを繰り返している。 E聞き手をなるべく見るようにして話している。 O抑揚や間を工夫した話し方をしていて、聞きやすい声量と速さで話す。 S身振りを交えている。

分

分

目的をもって視聴できるよう、「どちらが分かりやすいスピーチか」「なぜ分かりやすいのか」を考えながら聞くように指示する。

モデルスピーチが分かりやすい理由をワークシートに書き、発表する。

分

気付いたことを「分かりやすいスピーチの秘密探しシート」に書き出している際には、机間指導を行って一人一人の気付きを賞賛し、それを他の生徒に広げること、活動の意欲化を図る。分かりやすい理由を考える際に、声の大きさや速度など具体的な観点を助言して、違いに気付くことができるようにする。さらに他の観点から「のスピーチの分かりやすさの原因」を考えるよう促す。

【関心・意欲・態度】
・自分なりに気付いた観点を記述したり、発表したりしている。
(活動の様子を観察、ワークシートの記述)

分

— <予想される生徒の反応> —

- ・ は聞き手を見ていないけれど、 は見ているから分かりやすい。
- ・ は話し方がだらだらしているけれど、 は大事な言葉を強調したり、間をとったりしているから分かりやすい
- ・ は身振りを取り入れているから分かりやすい。
- ・ は大事な言葉を繰り返している。

【話すこと・聞くこと】
・ 分かりやすいスピーチをするための、メモの書き方や生かし方を記述している。
(ワークシートの記述)

モデルスピーチのメモから気付いた原因をワークシートに書き、発表する。

分

分かりやすいスピーチをするためのメモの書き方の観念に気付くことができるよう、メモを見比べて気づいたことを発表したり、それを整理したりしていく活動を行って支援する。

【言語についての知識・理解・技能】
・ 声の速度や大きさ、間の取り方や言葉の調子の違いに気づいている。
(ワークシートの記述、授業中の発言)

分

まず、分かりやすいと思ったのメモは、とどのように違うのかに着目するように助言を行う。気付いたことを「分かりやすいスピーチの秘密探しシート」に書き出している場面では、生徒一人一人の気付きを賞賛し、それを他の生徒に広げること、活動への意欲を高める。成就感をもつことができるよう、発表の際に意図的指名を取り入れ、一人一人の気付きを全体の学習の中に生かしていく。キーワードでメモを書くことの利点や、結論の位置と聞き手の分かりやすさとの関係等、具体的に考えるように助言を行う。

— <予想される生徒の反応> —

- ・ の方がメモが見やすい。
- ・ は要点が短くまとめている。
- ・ は文章で書かれているから、聞き手を見て話すことができない。

分かりやすいスピーチをするための観点を整理する。

分

「分かりやすいスピーチをするための技」として意識づけるために、生徒の見つけた観点を「メモの書き方にかかわるもの」と「書いたメモの生かし方にかかわるもの」とに分けて整理する活動を支援する。

第4時

(見通し2にかかわる授業。□の部分が特に検証にかかわる部分。また、授業後の質問やビデオ録画、録音等の方法を使っても検証を行う。)

- (1) ねらい
聞き手に分かってもらえるよう、構成や話し方を工夫しながら、「なりきりスピーチ」「なりきりスピーチ」を行うことができる。
- (2) 準備
第2時の板書事項を書いた模造紙、スピーチ上達シート(模造紙に書いたもの及びプリント)スピーチメモ作成用紙、付せん紙、モデルスピーチのスピーチメモ(配布済み)
- (3) 展開(5時間中の4時間目)

学習活動	時	学習への支援()及び留意点() 十分満足とする状況・態度の生徒に対する支援()	評価項目(評価方法)
前時の学習事項を確認する。本時のめあてを知る。	↑ 5分 ↓	本時の学習のめあてが意識づけられるよう、「なりきりスピーチ」で、分かりやすいスピーチをするための観点を身に付ける学習をしていくことを説明する。	
「なりきりスピーチPART」でキーワードで書いたメモを振り返ろう。			
なりきりスピーチを構想する。	↑	<div data-bbox="443 663 1206 719" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【テーマ】腐植土の自慢話「私はこんなに大切なよ！」</div> <p>キーワードでメモを作成し、聞き手を見ながらスピーチできるように、話す目的や相手を確認したり、練習の際にアドバイスをしたりして支援を行う。</p> <p>メモで用いるキーワードが見つからない生徒に対しては、第2時の板書(黒板に提示しておく)の語句を手がかりとしてメモを作成するよう助言する。メモが一応完成できた生徒に対しては、ペアを組んで練習を行っているように指示する。</p>	
なりきりスピーチを聞き合い、自分の改善点を考える。	20分	<p>生徒が自らのスピーチの課題や改善の手がかりをつかむことができるよう、「よくできていた観点」を教え合う活動や、互いのメモを見比べたりする活動を行って支援する。</p> <p>話し手の生徒が達成感をもつことができるよう、「よくできた」と判断した観点については、スピーチ上達シートの項目を消していくように指示する。</p> <p>「できなかった」と判断した観点については、どうすればできるようになるのかを、周囲の生徒のメモの書き方やアドバイスから考え、自分のメモの改善につなげるよう助言する。</p> <p>一度のスピーチで達成できなくてもよいことや、次回も挑戦できることを説明する。</p> <p>「聞き手を見て話す」ためのメモの書き方に気付くことができるよう、「聞き手を見ながら話すことができる生徒」のメモと自分のメモを見比べ、自分のメモの書き方の改善に生かすように助言する。を示し、その書き方を参考にするように助言を行う。</p> <p>「結論が聞き手にはっきり分かる」メモの書き方ができよう、構成モデルを用いて結論の位置と聞き手への分かりやすさとの関連性を確認して支援を行う。</p> <p>さらに分かりやすいスピーチにするため、他の観点も取り入れてメモの書き方や生かし方を改善するように促す。</p> <p>他の生徒のスピーチをより分かりやすいものにするために、積極的にアドバイスをしたりしていくよう助言する。</p>	
なりきりスピーチPART で、結論の位置を工夫したメモを振り返ろう			
なりきりスピーチを構想する。	↑ 25分	<div data-bbox="443 1749 1206 1805" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【テーマ】「お答えします。魚はこうすれば増えます！」</div> <p>構成や話し方を工夫した分かりやすいスピーチができるよう、話す目的や相手を確認したり、練習の際にアドバイスをしたりして支援を行う。</p> <p>メモで用いるキーワードが見つからない生徒に対しては、第2時の板書(黒板に提示しておく)の語句を手がかりとしてメモを作成するよう助言する。</p> <p>メモの書き方に表れた個々の進歩を他の生徒に広め、活動の意欲化を図る。</p> <p>メモが一応完成できた生徒に対しては、ペアを組んで練習を行っているように指示する。</p>	

<p>なりきりスピーチを聞き合う。</p> <p>なりきりスピーチの振り返り、自分の改善点を考える。</p>	<p>生徒が自らのスピーチの課題や改善の手がかりをつかむことが、この活動を通してできる。互いのスピーチの上手さを認め、互いにアドバイスし合う。先生が上手に話を聞いてくれるように、自分も上手に話を聞けるように努める。</p> <p>「聞き手が話している内容をメモに書き取ることが、自分のスピーチを改善するために役立つ。先生が話している内容をメモに書き取ることが、自分のスピーチを改善するために役立つ。先生が話している内容をメモに書き取ることが、自分のスピーチを改善するために役立つ。」</p> <p>「聞き手が話している内容をメモに書き取ることが、自分のスピーチを改善するために役立つ。先生が話している内容をメモに書き取ることが、自分のスピーチを改善するために役立つ。先生が話している内容をメモに書き取ることが、自分のスピーチを改善するために役立つ。」</p>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 結論の位置や話し方を工夫して、聞き手に分かりやすく話そうとする。 (活動の様子の観察) <p>【話すこと・聞くこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 結論の位置や話し方を工夫して話したり、話している工夫を工夫して話している。 (スピーチメモの記述、活動の様子の観察) <p>【言語についての知識・理解・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 話す速度や音量、葉書の調子を考慮して話したり、聞いた話している。 (スピーチメモの記述、活動の様子の観察)
--	---	---

第5時

(見通し3にかかわる授業、 部分が特に検証にかかわる部分。また、授業後の質問やビデオ録画、録音等の方法を使っても検証を行う。)

- (1) ねらい
これまでに身に付けてきたメモの書き方や生かし方の観点を活用して、聞き手に分かりやすいスピーチをすることができる。
- (2) 準備
・第2、3時の板書事項を書いた模造紙、スピーチ上達シート
「なりきりスピーチ ~」のスピーチメモとスピーチ上達シートをはった台紙
スピーチメモ作成用紙、付せん紙、カセットテープレコーダー9台
- (3) 場所
・多目的室3 多目的室4 1-1教室
- (4) 展開(5時間中の5時間目)

学習活動	時	学習への支援()及び留意点() 十分満足とする状況・態度の生徒に対する支援()	評価項目(評価方法)
本時のめあてを確認する。	↑	スピーチ、 で書いたメモから、互いのスピーチの上達ぶりを確かめ合うとともに、ベストスピーチを行っていくことを説明する。	
		ここが変わった！私のスピーチ	
スピーチメモと上達シートを自分の振り返り合う。	15分	互いに分かりやすいスピーチをするための観点が身に付いてきたことに気づき合うよう、なりきりスピーチのメモの書き方や生かし方の変化を見合う活動を行って支援する。	
(1) 自分のスピーチの変化に気づく。	↓	活動の意欲化を図るために、スピーチメモやスピーチ上達シートに表れた進歩を、他の生徒に広げる。変った点に着目するよう助言を行い、それが自分のスピーチのどのような変化につながったかを考えるように促す。	
(2) 友達のスピーチの変化に気づく。		スピーチの取組の様子や表現力の向上を具体的に認め、励ます。なるべく多くの友達のメモの書き方の変化について、上達への気づきを書くように促す。	

「聞き合おう！これが私のベスト・スピーチ」

「なりきりスピーチ」を構想する。

スピーチの自己課題が明確になるように、友達からももらった付せん紙に書かれている内容をもとにして、自分が身に付けた観点と未だ身に付けていない観点を明確にするよう助言を行う。

<テーマの例>

魚たちは訴える！「腐植土を大切に」
腐植土の自慢話「私はこちらに大切なものよ！」
お答えします。「魚はこちらすれば増えます！」
気仙沼の漁民、Aさんは語る。
植林しましょう！Bさん！ など

できるだけ多くの観点が「できた」といえるスピーチができるよう、各自のメモの作成や練習を支援する。テーマを決める際には、生徒が主体的に選択できるように、第1時に生徒が考えたスピーチのテーマの一覧を示し、その中から選択できるようにする。

練習の際には、聞き手の生徒も「スピーチの相手の立場」になりきって聞くことや、さらに分かりやすいスピーチにするための具体的なアドバイスを行うよう助言する。スピーチの内容が具体的に構想できるように、テーマを基に、話す目的や相手が明確になるように助言を行う。スピーチの改善点に気付くことができるよう、教師や生徒が聞き手となってアドバイスし合う。「間」を工夫したスピーチができるよう、個の状況に応じて、「どこで、どのように間を取るのか」等、具体的に助言していく。自分の声の大きさや速さを見直すことができるよう、録音機器を活用するようにアドバイスする。練習の際には、自分のスピーチをさらに分かりやすくするための改善点に気付くことができるよう、録音機器なども活用できるようにする。

「なりきりスピーチ」を聞き合う。

互いに「話してよかった」と思えるスピーチになるよう、互いのスピーチを聞き合う活動を支援する。スピーチを聞き合う際には、友達の上達した点や「うまくできた点」などに注意しながら聞くように指示する。

「なりきりスピーチ」を自己評価したり、相互評価したりする。

学習に成就感を持つことができるよう、互いのスピーチの上達ぶりを教え合っていくようにする。教え合う際には、「なりきりスピーチ」の時のメモの書き方や生かし方と比較して、各々の話す力の向上を認め合うよう助言する。

【関心・意欲・態度】

・自分のスピーチをより分かりやすくするためにメモの書き方や生かし方を工夫している。
(メモの記述の分析、活動の様子を観察)

【話すこと・聞くこと】

・キーワードで書いたメモを基に、構成や間、抑揚を工夫したスピーチをしている。
(スピーチメモの分析、活動の様子を観察)

【言語についての知識・理解・技能】

・話す速度や音量や間、言葉の調子に注意して話したり聞いたりしている。
(スピーチメモの分析、活動の様子を観察、相互評価や自己評価の分析)

20

分

15

分